2018/09/30(日) JAKEHS 東ブロック第 3 回定例会

①杉並総合中韓必須化その後
②韓国報告
　・韓日研（石黒）
　・ケソン高校（山下）
③ホームページ＆ブログその後
④ハングル検定今後の方向性について
⑤全国大会について

参加者（敬称略）
－山下、石黒、齋藤、鄭、長谷川、黒澤、田附、遠藤、李、趙（ハングル検定）、竹内、山田、松森

1. 杉並総合中韓必修化その後

1-1. 発表
資料(11/23、24 全国大会での発表予定)参照

1-2. 質疑応答
・必修化のメリットとデメリットを提示するのがよいのではないか。
・必修化に伴う成績の付け方やその結果が学習者にどのようにフィードバックされているのか公知する必要がある。（黒澤）
・シラバスの内容に関する質問
－「孤独のグルメ」を授業に取り入れた目的（ 動機づけ、会話、文化授業 ）は何だったのか。（長谷川）
－星座、干支などを取り入れた理由や目的は何だったのか。（鄭）
－韓国の部活事情を知り、認識の転換が必要。（黒澤）
－教科書の採択はどうなっているのか。（石黒）
－授業の最初のアンケートとともに終了時のアンケートや感想などを取る必要がある。
－定期試験の結果を提示する必要がある。

2. 韓国報告

2-1-1. 発表－全国日本語教師授業研究発表大会 参加報告 （石黒）
資料参照

－韓国の 이수진先生は 2019JAKES 年全国大会（兵庫開催）で発表する予定である。

2-2-2. 質疑応答

・最優秀賞を受賞された韓国の이수진先生と日本から参加された川合先生の所属は？
（長谷川）
・全国日本語教師授業研究発表大会での発表者や受賞者の人数は？(鄭)

2-2-1. 発表－ケソン(계성)高校での特別授業（選択科目としての日本語授業のガイダンス）への参加報告 (山下)

資料(ブログの記事)参照

授業の様子の動画

2-2-2. 授業の様子の動画への感想

・日本の先生以上に自由に授業をこなしている。(특성화고교ならではの楽しい授業ができる。） （黒澤、山下）
・韓国の外国語高校で日本語コースであっても実際に日本語能力試験を受ける割合は少ないのが現実。また、スケジュール的にも難しいのでその代わりに JPT を受けるようにしている。（黒澤）
・韓国からの留学生は日本語学校から大学に入学するより大学への直接入試が増加している。（田附）

3. ホームページ&ブログ その後

3-1. 発表 （齋藤）

・資料参照

3-2. 質疑応答

・執筆した人の感想を聴取
－韓国語での執筆なら気軽にできそう。
－アクセスが楽でコメントも書きやすい。(鄭)
－ブログに載せた記事をまた使えるので良い。(石黒)
－楽しく執筆できた。（遠藤）
・今後の運営について
－多数決で今後、ブログ運営を続けていくことを決定
－東ブロック独自で運営するが、西ブロックからもアクセスし閲覧できる。
－メーリングリストとブログの中間くらいの位置づけが、Facebook でできればよい。（ブログには載せられないものもアクセス制限をかけることができる FB なら作成やアップが自由なので） （田附）

4. ハングル検定協会との協力による検定試験作成の今後について

4-1.　経緯の確認

前回の7月の定例会で、ハングル検定協会とJAKEHSが協力し高校生対象に新学力測定テストの作成に向けて話し合いを持つこととなり、今回の定例会ではその後の経過の報告と、意見交換。
＊7月以降JAKEHSとハングル検定協会の間で交わさた確認事項については資料参照。

4-2.　意見交換

－JAKEHSより提示頂いた新テストの提案および、JAKEHS創立20周年記念事業の企画案に含まれます内容含めて協会の中で協議をしたところではあるが、協会の組織体制として、理事会や評議会等組織的に十分な時間をとって頻回に協議できる体制でないこともあり、2020年に向けて・・というような今回の話の展開が早急すぎることに困惑している状況がある。JAKEHSとの関係性もまだ希薄であり相互理解も少ないと言う点もあり協会としては協力するかどうかまだ入り口の段階で止まった状況といえる。（ハングル検定協会　李清一理事）

－まずはモニタリングとしてのテストの実施が最初にはなると思う。実際に学校長を通じ会場の提供も含めてモニタリングに協力頂ける高校もありのでモニタリングの結果を持って今後どうしていくかを議論する題材にする必要がある。今の高校の単位数の中で高校生がどの程度のレベルに至るのか、教育のレベルはどうなのかということも含めて協議、共有成果を残す必要があると考えている。そこに協会のご協力が可能であるかどうかを伺いたい。協会からのご協力が得られない場合でも、独自ででもなんらか評価できるものを検討し、国へ提示できるものにしていくことが、2020年以降の予算等にも関わっていくことだと思う。（黒澤）

－一旦、2020年の実施や会場についての具体的なことは置いておき、高校生の為の・・とした基になるモニタリング試験を検討することは可能かどうか。どのような内容であれば評価として使える試験になるのかを検討することは可能ではないか。

－ハングル検定協会の中でも7月以降JAKEHSさんとの話合いの前から入門レベルのテストの必要性や検討の話も出ていたものであるが、果たしてその需要がどの程度であるか、実務者レベルの意見で良いので知りたい。実施にあたってはやはり準会場的に場所や試験運営を会場にお任せする必要があるのでそこに対応頂くことが可能である等は検討が必要になると考える。（ハングル能力検定：趙明淑次長）

4-3.　話合いのまとめ

－JAKEHSとしては入門レベルのテストの需要はあるとほぼ断言できるが、協会として実際に数を知りたいということでしたらリサーチは可能。

－まずは 11 月全国大会までに先生方にアンケートを実施し試験の需要など把握した上でモニタリング試験については再度検討する。
－アンケートの内容については JAKEHS と協会とで必要な項目を検討し実施する。
－アンケートは全国大会までに実施し大会の際には集計の発表ができるように準備予定。
－協会からは今後の試験作成について継続しての協力を依頼をしたい。

5. 全国大会について

5-1.　全国大会概要の説明（山下）

・後日、JAKEHS メーリングリストで流れる全国大会概要資料参照。

－神戸韓国語教育院の協力により兵庫県の韓国語教育を中心に発表等行う予定。
－韓日研の先生の発表等も予定されている。（プログラムの詳細は後日ホームページに掲載）。－参加の場合は各、教育院からの補助もある予定。東ブロックからも多くの参加を。